

平成30年度第2回那珂市総合教育会議 議事録

- 1 日 時 平成31年2月25日(火)
午前10時00分～午後0時10分
- 2 場 所 那珂市役所5階502・503会議室
- 3 出席者
(構成員) 市長 先崎 光 教育委員 中澤 明
教育委員 住谷 光一 教育委員 小笠原 聖華
教育長 大縄 久雄

- (事務局) 【総務部 総務課】
総務部総務課長 渡邊 荘一
課長補佐(総括) 海野 直人
課長補佐(総務グループ長) 小泉 友哉
総務グループ主幹 齋藤 哲生
【教育委員会教育部 学校教育課 指導室】
教育部長 高橋 秀貴
教育部学校教育課長 小橋 聡子
副参事兼指導室長 沼田 義博
【教育委員会教育部 生涯学習課】
生涯学習課長 高安 正紀
課長補佐(総括) 萩野谷 智通
国体推進室長 綿引 勝也

- 4 会議次第
- 1 開 会
 - 2 市長あいさつ
 - 3 市長、教育長及び教育委員による意見交換
 - 4 協議事項
 - (1) 那珂市教育大綱(案)について
 - (2) 那珂市教育大綱の進捗状況について
 - ※全体説明(学校教育課長、生涯学習課長)
 - ※各種取り組みについてプレゼンテーション
 - 5 その他
 - 6 閉 会

5 内 容

渡邊総務課長： ただいまから平成30年度第2回那珂市総合教育会議を開催い

たします。

本日の会議進行でございますが、お手元の次第をご覧くださいのですが、今回、新しく那珂市長として先崎市長が就任いたしましたので、まずは市長のあいさつの後に市長と教育委員の意見交換、フリートーキング形式で市長の考えや教育委員の意見などを自由にお話いただきましてから、協議事項の教育大綱（案）の審議及び教育大綱の進捗状況の説明に入りたいと考えております。よろしくお願いたします。

さて、この総合教育会議の趣旨は、市長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、那珂市の教育に係る課題、目指す姿などを共有しながら同じ方向性のもとで、連携して効果的な教育行政を推進するというものでございます。

そこでまず、前段に、先崎市長から、あいさつを含めて教育行政に対する思いを述べてもらいまして、その後、フリートーキング形式で意見交換を行い、先崎市長と教育委員の皆様方との教育行政に対する方向性の確認をしていただければと考えております。

それでは、先崎市長のごあいさつをお願いいたします。

先崎市長： それでは、2月13日に新しく市長に就任しました先崎でございます。よろしくお願いたします。本日は、平成30年度第2回的那珂市総合教育会議に教育委員の先生方におかれましてはご多忙中の中ご出席いただきまして誠にありがとうございます。また平素から子どもたちの健全育成、本市の教育行政の推進にご尽力をいただいておりますことを心から感謝を申し上げます。さて、現在インフルエンザが猛威をふるっているとのことで、市内の小・中学校で学級閉鎖のみならず、学年閉鎖も相次いでいるとのことであります。市としましても、これ以上の感染拡大を防ぐため注意を喚起しておりますが、1日も早い収束に向け、より一層の情報発信に力を入れていきたいと思っております。

本日の協議事項は2点ございます。

1点目は、第1回総合教育会議で協議いただきました新しい那珂市教育大綱の決定。

2点目は、現在の那珂市教育大綱の進捗状況について報告をしていただき、教育現場における取り組み状況を確認し委員の皆様と意見交換を行い、今後の進め方などを改めて確認できたらと考えております。

子どもたちは那珂市の宝であり、未来を担う子どもたちが安心して教育を受けられる環境を整えるとともに、総合教育会議におきましても、皆様方との意思疎通というものを図り本市の教育課題や目指すべき姿というものを共有し合いながら、さらに教育行政を推進

してまいりたいと考えておりますので、一層のご支援、ご協力を重ねてお願い申し上げます。

私も県におりましたが、部局と教育庁となかなか意思疎通が難しいのかなと思うこともありました。職員の皆さんは一生懸命やっていますけれども、やはりどうしてもそれぞれの部署でそれぞれのやり方がある。しかし、昨今のいじめ問題に端を発した現場での非常に悲惨な事故とか色んなものを踏まえたときに、やっぱり部局と教育現場、教育委員会がきちんと連携をしなくちゃいけないということで、県においても知事と教育長さん、教育委員さんが会議を行っております。そういったことを通して、やはり市民にあるいは県民にきちんと責任を果たしていく。そういった意味からも、総合教育会議というのは非常に重要な場と考えております。

また、特に今日は教育大綱の審議もございます。教育大綱にはすべてのことが網羅されておりますので、そういったものをきちんとつくり上げていくってということが、本市の教育振興には非常に大切なことというふうに考えております。本日また、よろしくご審議、ご協力をお願いしたいなというふうに思っております。

教育という幅広い捉え方の中ではたくさんの方があります。私も若いころから色々なことをやらせていただきました。青年教育、社会教育という分野を非常に私は大事にしていまして、そういった中で色々なことを経験させていただきました。大別しますと、おそらく学校教育、そして社会教育という大きな2つのくりになっていくのかなというふうに思っています。最近では、就学前の家庭教育、幼児教育をどうしていくかということも大変話題になりましたが、そういった観点も当然捉えなくてはいけないというふうになると思います。

学校教育はおそらく子どもたちの成長を見守っていく、地域の宝と申し上げましたけども、そういったところととらえたときには、非常に大きなウェイトを占める学校教育もそういう部分にあると思っております。昔から知育、あるいは徳育、体育と言われますけども、子どもたちが豊かな情緒を持って本当にバランスのとれた成長をしていくために、教育現場が果たす役割は非常に大きい。そしてまた地域もそのことをきちんと支援していくような体制をつくらなければいけない。そのこともずっと感じてまいりました。そういった意味では、学校教育は子どもたちが社会に巣立っていくまでの非常に基礎的なものをきちんと教えていく場であると私はいつも考えております。

残念ながら、時代の流れの中でどんどん変わってきました。もう色々なものまで学校に、例えばしつけの問題なんかも、学校でやってくれ。本来家庭でやるべきものが、学校にどんどんどんどん先生

方の負担が増えていく。私も県庁にいたときに、ある同級生が学校の校長をやっていたけども、先崎、あまり議会で急にこのことを調査してくれなんて言うなよな。その一言で学校の先生らがどれだけ大変になるか。教育長から指示があって、3日以内に数字を出せと。学校の先生方は今やっている仕事を止めて、そのデータ拾いを一生懸命やらなきゃならないのだと。あまり議会で余計な質問するなよと同級生の校長先生に言われましたけども、それでもやっぱり関心があることは、どうしてもデータを必要としますのでやっていただきましたけれども、それほど先生方の業務も多岐に渡っていて、大変な状況だというのはお聞きしています。

また、ある市内の学校の校長先生に話を伺ったときに、議員時代でしたけれども、先生何が一番困っているのですかって、何が一番要望したいですかと聞いたら、先崎さん、先生1人でも増やしてくれ。とにかく大変なのだ。子どもたちも色んな環境の中で学び、色んなことやっていますけども、小人数学級というのは県もずっとやってきました。35人学級。大分進んできました。しかし、本当に子どもに寄り添いたい、子どもの色んな課題にやっぱり親身になって寄り添ってあげたいっていう先生方の希望は強いんですね。そういうことを考えると、もっともっと小人数学級も進められるべきでしょうし、現場の先生方の負担を少なくして、色んなことに対する負担を少なくして本来の業務である子どもたちと向き合う。そういう時間を長くとってやるっていうことが、私は大事なことなのだということに思っています。これは人員配置のことなんかもありますから、教育長さんはじめ色んな方々にお世話になりながらやらなければならないことでもありますけれども、どういったことがこれからできるのか検討しながら、先生方のそういう意味での本来やるべきことに集中できるような体制が必要だと思います。

あともう一つは、働き方改革も言われていますけれども、非常に実態を知って愕然としました。まさしくブラック企業だと。学校の先生は、そういう中で果たして次の時代を担う若い先生方がその戸を叩いてくれるのか。県議会でも大分やりました。現場の先生方も一生懸命になって実態調査をして改革の改善委員会をつくって進み始まったところです。市レベルでもやっぱり身近なところから、そういったことも考えていかなくちゃいけない。先生方の働き方改革、そういったものもあるのかもしれない。部活動がよく例に挙げられますけども、そういったことも含めて保護者の理解もいただきながら、本当に子どもたちのために、どういった体制をつくっていったらいいのか。そのことは、これからも考えていかなくちゃいけないのではないかなというふうに私は考えております。

学校教育が基礎であれば応用編はやっぱり社会教育になってきま

す。どうしても社会教育っていうと、あまりスポットが当たらないように感じているのですけども、先ほど申し上げました幼児教育、就学前教育を中心とした家庭での教育、そういうのも大事です。今、幼保連携あるいは幼保小中連携ということが進んできましたので、そういったことも通しながら、やっぱり就学前教育課程における教育なんかもしっかりしていかなければならないというふうに考えております。

そして、私が青年時代、色んなところで色んな勉強させていただいた、青年教育。青少年教育といってもいいかもしれないですね。社会に出てからなかなか学生時代は一つの箱にいますから、教育する環境は割と整いやすい。しかし、社会に出るとそれぞれのフィールドが違いますから、その人たちに、例えば働いている若い青年たちに教育の場を、学ぶ場をつくりたいとしても、なかなか今度は箱がないですから、厳しいですよ。公民館とか色んなものがそういう機能を果たしていくのしょうけども、なかなか呼びかけても若い人たちが集まらない。結局は集めやすいご婦人層とか、年配者の方々を中心に講座をしていくというのが、どうしてもやっぱり、現実になりがちです。私は本当に大事なのは若い人たちにこの地域の未来を託すためにどういう学びをしてもらったらいいかっていうことをきちんとやっていく必要があると思うのです。そのことをやらない限り、やっぱり地域の未来はない。子どもたちに色んなことを学んでもらいます。でもそれは基礎であって、その基礎を応用する社会の中で学び続けていくっていう姿勢ができなければ、その地域を担っていく、背負っていく若い人は育っていかないというふうに思っているの、公民館教育を中心としたそういう一般に対する教育なんかをもっと力を入れていかなくちやいけないのかなと。那珂市は8つの地区があります。神崎、額田、菅谷、後台、戸多、芳野、木崎、瓜連。この8地区の地域でそれぞれが特色を持った、神崎のことはおいら神崎の若い者が何とかすっぺ。戸多のことは、戸多の若い者が何とかすっぺよ。そういう気概が地域から起きるような社会教育をやっていかないと。子どもたちは一生懸命育てました。でも、社会に出て、地域と少しずつ離れていってしまう。地域の絆と触れ合うことが少なくなっていくなんていうことで、残念な結果に繋がっていくようなことはあってはいけないというふうに思っています、そういう意味では、社会教育をどういうふうに充実していくか、これも大変大きな課題です。仕事っていうのは、課題、ハードルが高いほどやりがいがありますし、そのことに取り組まなければ、本来求める結果はなかなか出ないのじゃないか。例えばご婦人層とか、高齢者の皆さんというふうに、これもあまりいい例えじゃなかったかもしれませんが。そういう方々も本当に一生懸命大変

な中で、生活をしているわけですから。でも、比較的声かければ集めやすい方々を集めての教育の場というのも大事ですけども。それにプラスして、地域の将来を担っていく若い人たちに、どういう学びの場を与えていくかというのが、私は地域の未来を左右する大変重要なポイントになっていくのだと思うのですね。そのことが地域間競争にも勝っていく、共生社会なのですけども。それでもやっぱり自分たちが誇りと生きがいを持って地域に残っていける、そういう魂をつくっていくのは、まさしく社会教育じゃないかなと私は思っています、そんなことをこれからずっと皆さんと一緒に考えていければいいなというふうに思っております。

生涯学習の時代です。本当に小さいお子さんから御年配の方まで、一生涯学び続ける、学びのフィールドはたくさんあります。そして学びの場面もテーマも、色んなものをもう1回掘り起こして、頑張っていきたいなど。額田城の話も色んなところで聞きました。北関東最大の中世の城郭跡ですよ。埋もれている。もったいない。那珂市をもっともっとPRできる、そしてみんなのふるさと意識をもっともっと喚起できるポイントと思うのですね。みんながオール那珂市、オール那珂市役所で考えていく。単に教育だけに任せてはいけない。そういう意味では、教育は人づくりですから、人材づくり那珂市をどうするかというの、また教育。国家100年の計は教育にありとか、米百俵の話もありますよね。みんなで分ければ一瞬にして食べてしまうお米。学校をつくろうとそういうふうに判断したときの先人たちの思いを考えれば、やっぱり教育こそ那珂市をつくっていく原点かもしれない。そういうことを考えれば、人材を起こして那珂市をどんどん発展させていく。那珂市をつくっていく。産業も福祉も、やっぱり原点にあるのは人ですから、人をつくるのはやっぱり教育です。教育も色んな教育があります。そういうことも含めて、私は教育委員の皆様、先生方に、これからもお世話になりながら、よりよい那珂市の教育をつくっていければと、そのように考えております。こういう機会なかなか年数回ですから、貴重な機会になると思うのですけども、忌憚のないご意見、色んな話を伺ってこれから那珂市の教育づくり、人づくりに進んでいければいいなというふうに思っておりますので、どうぞよろしく願いをいたします。

渡邊総務課長： はい、ありがとうございます。それでは教育委員さんとの意見交換ということになりますけれども、今回先崎市長とは初めての方もいらっしゃると思いますので、教育委員さんのほうからまず自己紹介をしてからお話をさせていただきたいと思います。まず、中澤委員の方から自己紹介と一言ご挨拶をお願いいたします。

中澤委員： 教育委員をさせていただいております中澤明です。よろしくお願いいたします。一言ということですが、今、市長さんのほうから色々な学校教育、社会教育に対する思いを聞かせていただきました。その中で私が思ったのが、学校教育という場においては、子どもとの触れ合いの時間を増やす。これは本当に教員としての原点なのですよね。ですから我々も現場に行ったときには、子どもといかに触れ合う時間を増やすかっていうこと。それに付随して色々なことをやってきたわけですが、今現在のところ、確かに働き方改革云々、あるいは教員の世界はブラック企業だとか言われていますけれど、子どもと触れ合うことが嫌いだっていう場合は、もうその人はもう私、教員としての素質はどうなのかなあといつもそういうふうな感じを思っております。また、具体的なものが色々お話できればと思います。よろしくお願いいたします。

渡邊総務課長： はい、ありがとうございます。続いて小笠原委員からお願いいたします。

小笠原委員： よろしくお願いいいたします。教育委員を大分させていただいております小笠原と申します。よろしくお願いいいたします。市長の話をして色々と多岐に渡るお話と、こういうことをされたいのだなということと同時に聞いて、やっぱり課題が大きいほど、でも一方でこちらもわくわくするようなすごく期待がわくようなお話しをいただいて、とても興味深く聞かせていただきました。やっぱり働き方改革については、すごくこれから重視されていくものだと思うのですが、私もどうしたらその働き方が変わっていくのかっていうのをいつも考えているところであって、その中には、人を増やすっていう、どちらかというところとハードな面と同時に、その意識を変えるっていうこともすごく大事ななと思っています。例えば学校だとどうしても担任がいるので、その担任がすごく自分のクラスは自分の城という感覚が強くて、やはり1人で抱え、又はいざ助けをを求めることをよしとせずに頑張るってやろうという意識を変えることで、問題にはなるべく多くの人数でチームで抱えることで、その人の非常に過重な労働だっていう意識を変えるっていうことも、働き方改革の一つかなというふうに最近思うようになりました。現に部活動やそういう面では非常に負担を軽くさせていただいて良かったとおっしゃる先生もいらっしゃいますし、それからやっぱり最近担任している子どもたちは自分のものではなくって何人かで様々な得意分野を持った先生たちが関わっていて、その後にごくいい対応ができていて話も伺って

いますので、そういうことを多くの先生方に周知していただいて意識を変えろということも、働き方改革の今後の重要なポイントになってくるのかなと思いました。

他にも生涯教育や社会教育とすごく興味を引かれる分野もありますので、今後とも色々教えていただきながら、私も勉強していきたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

渡邊総務課長： はい、ありがとうございます。続いて住谷委員からお願いいたします。

住谷委員： 住谷光一と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。もう何年も教育委員させていただいておりますが、教育の問題は多岐にわたっていて、今市長さんが色んな教育問題を解決するための切り口をたくさんお示しになされて、色々考えておられるのだなということがわかりました。私は教育の問題は、結局教育とは何かという、大きなテーマがあると思いますが、それは文化伝統の継承であるというこの1点を外しては、教育は成り立たないと思います。ですから、家庭の問題、学校の問題、社会の問題、色々挙げられると思いますが、教育問題の大きな問題は、大体家庭から発生すると私は考えております。家庭で色んな虐待などがありますが、どうやったら問題をなくすことができるのか。これはやはり歴史的に振り返って、敗戦が大変大きな要因でありまして、家庭で子どもたちをしっかりと教育するという自信をなくしてしまった。私の父も亡くなりましたが、非常に厳格でありました。それは結局、生涯にわたって子どもたちが困らないようにという願ひがあるのですね。私も教員をしておりまして、担任もして、保護者面談がございます。そのときに、あるお父さんと家庭でどんなふうに教育されていますかとお聞きしたら、私は子どもと仲よく兄弟のようでありたいというふうに答えるお父さんが非常に多かったです。これちょっと愕然としました。父親はやっぱり全部とは言いませんが、厳しいものであり、母親は慈愛に満ちたものであると私の家ではそうでしたので、そういうのが一般的な家庭のあり方かなと思ひましたら、変わってしまひまして、そこから男女の違いとか、色んな面で、そごを来すようになるということもあると思います。ですから家庭教育が一番ですが、それがだめだとなると今度は学校でしっかりとなくちゃいけないという。学校が今、ブラック企業の話も出ましたが、先生方もなかなか子どもたちと関わっておられないという。実際は文部省からとか県とかから、色んなものが回ってくる。雑用が多すぎる。研修と教育というのはどのように関わるかよくわかりませんが、あんまりにも多過ぎるという。ここのところずっと欠点が見えるように

思いますね。

私は今の小笠原さんの瓜連の常福寺の場所をお借りして、いわば社会教育みたいな講座やっておりますが、若い方は来ません。ほとんど来られるのは70代から80代。先日私の恩師が見えましたが、多分87歳くらいかと思うのですが、ビックリしました。学ぶ意欲がすごいというのもまた年寄の特徴ですが、それにしても若い方々がそういう人間としてどうあるべきかということをおまわり関わりたくないというような雰囲気もございまして、色んな観点から、教育の問題は難しいなというのが率直な実感でございまして、市長さんが今色々おっしゃられたことと全く同感であります。どうぞよろしく願います。

渡邊総務課長： はい、ありがとうございます。それから大変申しわけございません。申し遅れましたが本日教育委員の佐藤哲夫様が都合により欠席となっております。続きまして大縄教育長の方からご挨拶願います。

大縄教育長： 教育長の大縄でございます。市長とは就任前に1回だけお話をさせていっていただく機会があったわけですが、今回このような席で市長の熱い思いをお伺いいたしまして、私も教育長として、いま一度その那珂市の教育というものをしっかりと振り返りながらこう先を見通した取り組みというものを考えていかなくちやならないなというふうに今改めて感じたところです。市長のお言葉を借りれば、逆にそれは一つのやりがいでもあるのかなと。教育委員さんとは定例の教育委員会をはじめ、協議会の中でも今までごっこばらんにお話をさせていただきましたし、これからはごっこばらんにもそういう話をしていきたいなというふうに思っています。あわせてこの総合教育会議も、そういう会議でありたいな、あって欲しいなと。お互いの思いをぶつけ合いながら、やはりすべては子どもたちのために、すべては市民のためになる教育をみんなで作ってあげたいな。そんな思いでありますので、どうぞよろしく願います。

渡邊総務課長： はい、ありがとうございます。それではしばらくお時間をお取りしたいと思いますので、今のお話の中で何かお聞きしたい点であるとか、話し合いたい点であるとかありましたら、自由に発言をしていただければと思いますのでよろしく願います。

先崎市長： 住谷先生、常福寺さんお借りして講座をしているということですが、どのような講座ですか。

住谷委員： 歴史民俗資料館の館長の仲田先生からお声がありまして、今年は明治150年なので、それに関する講座を一つ持ってくれないかということで、私も一つ岡倉天心と明治維新というテーマでお話させていただいたのですが、6人体制のようで、それぞれ皆さん色々な方が色々なテーマでやっておられます。最初、那珂市の中で何人来るだろうか。20人かなということで考えておったのですが、ふたを開けてみたら70人超えまして、申し込みが多すぎてお断りしているのです。今年もまた予定はあるのですが、若い人が聞いて欲しいねっていう話で始まりましたが、ほとんどいらっやしません。おそらく一番若いかたが40代でしょうか。最高齢のかたは80代の後半ということで、ただその皆さんはすごく色々な知識をお持ちで、後で鋭い質問がどんどん来るのですね。ですから、年寄のかたはかなり意識が高いなという気がいたします。どうしたら若いかたがお話を聞いてくださって、少しでも自分を高めていけたらというふうに考えていただければいいのですが、その辺が最近どこの講座もそうですね。年寄のかたは積極的で、長生きしているせいもありますが、なかなか若いかたが集まらない、忙しいっていうこともあると思います。以上でございます。

先崎市長： 常福寺の庫裏か何かをお借りしているのですか。

小笠原委員： 園の分園の2階でやっております。

先崎市長： そうですか。やっぱり若い人たちが意識を、さっき小笠原先生からあったように意識を変えていく、意識をどう持っていかってという働き方改革に通じるものがあると思うのですがね。私もやっぱり、自分でこういう仕事をやっているの、歴史は大事だなと思って、なるべく機会をとらえて、それでも全然学びきれないのですけども、でも知らないよりは知ったほうがいいっていうのと、これは市の職員さんなんかについても言えることなのですが、やっぱり自分の目の前の仕事だけやっていればそれでいいっていう、これ誰もそうですね。やっぱり幅が広がらないですね。先週横手市の高橋市長さんという若い市長さんと会ってきましたけど、凄く歴史を分かっています。やっぱりリーダーになる人は歴史をきちんと勉強するという、40歳くらいとまだ若い人ですけどよく知っていますね。南部藩のこと、岩手のこと、自分の高橋のルーツはどこなのだとか、佐竹との関係とか、勉強していましたね。だからやっぱりなるべくしてなった人なのではと思うけども、それにしても、色んなところでそういう過去のことをきちんと学ぶ温故知新。要は、非常に大事なこ

となのですよね。だからそういうことをやっぱり今度は若い人たちに。年配のかたも大事ですよ。私の親父は大分早く死んじゃったのです。私が18歳のときなのですけども。親父が生きていたらどんなことを言うのかなってというのが、親父の年に何となくなってきた、60近くなってきた、何となく気になってきたというか。あと、自分の祖先とか、おじいちゃん、おばあちゃんのこととかっていうのに興味が出てくる年代になっていくのでしょうかね。首を垂れる稲穂じゃないけども、実ってくるほどそういうものに関心が高まる年代なのではしょうけども、でもそれは自然な流れでむしろ若い人たちにそういう気持ちをどう向けていけるのかなってというのが私は那珂市発展の大きな鍵になっているのではないかなと思っているのですね。だから、今おっしゃったようにそれを若い人たちにどう関心を向けてもらうか。もしかしたら、やっている時間帯の問題があり、平日なんかとても行けないかなとかね。最低でも、夜7時からやってくれないと行けないかなとかね。そういう条件を整えていっても来る人はばらばらだったりするのですけども。でも、そういう色々なことを考えながらやっていかなくちやいけないのかなと、非常に大きな課題のような気がしますね。

住谷委員： 私陶芸のボランティアをやっておりまして、水戸市内7校でやっているのですが、お茶碗をつくってお茶会やるのですよ。お父さんお母さんをお呼びして、そこで、立てて差し上げます。親に対して。それをちゃんとしたデモンストレーションをしてから子どもたちは正座をしたままちゃんとお茶碗を出すのですね。そうすると、お母様は大体涙流していますね。そういうことはたいしたことではないと思うのですが、子どもたちにとって、ものすごいインパクトがあって、お父さんお母さんも子どもを育ててよかったなっていう、その瞬間がすごく充実感があるということをお聞きしています。だからこそそういう機会をつくるということは大事だなと思います。学校の先生がやるよりも外から来たおじいちゃん、おばあちゃんのようなボランティアがやる方が効くのですね。先生に言えないようなこともべらべら言いますから色々面白いですね。

あと、常磐神社の義烈館で刀を磨いているのですが、刀剣女子が凄いですよ。この前やりましたが1,200人来ました。ですから、そのブームというのも、刀を通じて伝統文化に繋がりたいっていう欲求を女の子が持っているのですね。何で男が来ないのかなと不思議なのですけども、そういう色々な経験させていただいていると歴史に対する欲求っていいですか本当のことを知りたいっていう、本当のことが歴史の教科書に書いていないということが子どもたちは薄々感じておって、それを探しに来ているのではないかな。

から来ましたかと聞いたら私京都から来ましたと。京都から幾らかかかるかわかりませんが、それでも来るのですね。写真1枚撮って喜んで帰っていくという。これは一体何だっという。そういうことを色々実感しますね。

先崎市長： 中澤先生、長く子どもたちと関わってきて、さっき住谷先生が、子どもがお茶を入れてくれて親がポロっときちゃったっという、子どもたちがどこかで変わる瞬間があるというか、非日常かもしれないのですけどもね。子どもたちがやっぱり自分の個性とか、多分長い人生の中で色んなことを経て、人ができていきますよね。特に子どもたちが小中学校の時代に感動することとか、達成感とか、そういうのを教育の現場はやっぱりどういうふうにして用意したらいいのかっていうか。さっきのは学校外だったのでしょうけどもね。学校内でもそういう努力を一生懸命されているのしょうけどもね。

中澤委員： そう、学校の中においてそういうふうな達成感、これはやはり中学校なんかの場合には、自分たちが計画して何か行事を行ったっというふうなところでの達成感。例えば文化祭っというふうな一つの行事、それに対して君たちが企画運営をしてみてくださいと任された場合においては、意外と子どもたちはやるのですよね。そして、その出来上がったとき、みんなでやった一っとなって、脇から見ていて子どもたちにやりがいをもたらすことができたのだと強く感じます。

やっぱりトップダウンでこれやってみろということで、子どもたちに任せちゃうのは、小学生においても中学生においても、やらされているのだからという感覚がやはり強いと子どもたちにおいてはやはり達成感というのはどうしても出てこないのかなと今までの経験上あります。

ですから小学校なんかの場合においても、例えば卒業遠足は班別行動にしよう。そして、この班別行動は君たちが自由に計画して、やってみてくださいというふうなことですと、子どもたちは一生懸命色々な地域の情報を集めてきて、今ですとインターネットなんかを使って色々こうやるのしょうけれど、そういうふう調べて自分たちはここでこんなものを見ると、そしてここに行くのだということをやっ、そういうふうなやった経験をさせておきますと、中学校での修学旅行の班別行動、京都市内といってもさらにもっと充実した形でできるかなと思っております。

先崎市長： 先生方は色々問題を抱えている中で、今のお話の中でやっぱり信じてやるっというかね、子どもたちの能力を信じてやる。このぐら

いなら頑張っているだろう。頑張ってもらいたいって信じてあげるといのは、確かに大事かもしれないですね。1から10までお膳立てしちゃうと、やらされている感が強くなったりするみたいなこともあるのかもしれないね。

小笠原先生どうですか。私は先ほど社会教育のことを言いましたが、昔はお寺とか神社で、手習いをしたり、そこが子どもたちの遊び場だったり、今もね、そういうことになっている部分もあるでしょうけども。やっぱりそういうところが地域の中で果たしていく役割というのは、こういう時代だからこそ大きいと思うのですが、それをどう今の人たちの生活の中に溶け込ませるか。さっき言った年配の方々なんかやっぱり興味があるかもしれないですね。寺社仏閣でも若い人を、子どもたちをとということについて考えていること何かありますか。

小笠原委員： はい、先ほど市長のお話の中に学校を終えた若者の教育もすごく大事に思ってもらっちゃるっていうのを聞いて、私たちは子どもの頃は高校生会なんかがあって、小学生に高校生がたくさん遊んでくれたり教えてくれたりしたなんていうことをちょっと思い出して、今の若い人たちは、すごく学びたいっていう気持ちとか、人の役に立ちたいという意識を持っているのだけども、それをどこで発揮していくかっていうのはすごく迷っているところもあると思います。現に今保育園の保護者はすごく若いですが、その若い保護者も、子どもを預けられれば、自分たちももっと色んなところ、例えば奉仕活動であったり、それから、地域のお祭りであったり、そういうところにも行きたいのだ。でもやっぱり、子どもがわーって行っちゃうとそちらに行かなきゃいけないし、やっぱりいまだにその子どもが自由にわーわー動いて遊んでいることに対して、その親は何やっているのだからっていう目をいつも気にしている。だから、地域で育てる重要性っていうのは、例えば私たちは境内を掃除しているとちょっと手伝ってやっけとか言ってきて手伝ってくれる子もいるのですね。やっぱり小さいうちから多くの目で温かく見守ってあげるといのが凄く大事だなと思うのですが、なかなかそれも難しい面もあるので、今だったら、幼稚園、保育園の実際お子さんを預かるところで、親の学びたいという気持ちを肩がわりするような催しであったりそういうものたくさんやりたいっていうことは思っています。

先崎市長： はい、ありがとうございます。教育長どうですか。今までずっと聞いていて。

大繩教育長： 総括的な話でもないですけども、例えば先ほど達成感が学校内という中澤先生おっしゃられたように、とにかく任せること、私も現場にいた人間として中澤先生もそうですけれども、意外と教師ってそこが難しいのですよね。任せようとはするのだけど任せられない。やはり、我々の教師の性みたいな一つのこういう枠がある。その中で何とか納めさせようとする。だからそこをやっぱりどう変えていくか。やっぱり我々教師一人一人の意識が変わらなくちゃならない時代だし、変わっていかないと今の時代の教育にはついていけない時代にもなっているなという気がします。例えば、私たちが今この年代になって、我々が若いころ、こういうだったよね、こうやればよかったよねというのはもう通用しない時代になってくる。そこに色々と創意工夫をしていかないと。そして今の時代にあった、考え方にあった教育をしていかないと教育だけが取り残されてしまう。色々と形は変わってきている。要領も変わってきている。目指す方向も変わってきているのに、教師だけがそこについていけなくて、例えばICTが進むと、私もそうですけども、なんかパソコン難しいよね、目の前にあるプロジェクターどうやって操作するのよということになっていってしまう。ただそれがやっぱり教師の意識をどう変えていくかっていうことは特に学校教育の中においては、私は大きいという気がしております。

それと、生涯学習、社会教育においては、先ほど市長のお話を伺っていて私も思ったのですけれども、今これだけ働いている人が多い中で、PTA活動も含めて実際にそういうかたにどんな場面でどんな機会を何を勉強していってもらったらいいのかなっていうのはとても難しいなっていう気がします。その一つがやはりPTA活動の現れにはなっているのかなっていう気も私自身はしています。PTAのあり方そのものをどうのこうのなんていう根本的なことよりも、単純に子どもの応援団であるのだという学校の応援団であるのだっていう、そういう意識のもとでやっていく方がいいのかなと。子ども会にしても何しても。そもそも何から始まるか難しくて、出発できない、新たな取り組みができない、そういうものすべて取っ払って、今できること、何をどう動けばいいのよという、そこに絞ってやっていったら、私はまた新たな動き、取り組みっていうのができてくるのかなという気がします。ただ具体的にどうするのかって言われると、なかなか難しいのですけれども、そういった話し合いを色んなところでしていくことが大事なのかなという気がして、これから私も、そういったことも含めて何をどうするという事は、教育委員さんも含めてうちの事務局、事務方とも、話し合いをしながら、那珂市の目指す教育、学校教育ばかりじゃなくて生涯教育も

含めた方向性というのはしっかりと見極めていきながら、その時代時代に合った教育というものが、ある意味那珂市の特色になって今風の言葉で言うと、那珂市スタイルになっていくのかな。そんなものがつくり上げられたらいいなど。例えば先ほどの就学前教育にもそうですけれども保幼小中に何とかしていきたい。そうすると0歳から生まれてきたときから、いわゆる義務教育の終了の15年間の教育というものが那珂市スタイル的なものなんていうのができ上がってきたらもう本当に素晴らしい。地域を巻き込んだ若者を巻き込んだことをしていけば、将来的には、那珂市に戻ってくる、那珂市がいいね、那珂市のために、そういう考えを持つ子どもたちが、あるいは青少年が増えてくるのかなという思いがしています。ただ、一朝一夕にできるものじゃありませんので、その辺の中長期的なビジョンというものをしっかり持ちながら進められればいいなというふうには思っているところです。何かまとまりのない話になってしまいましたけれども以上です。

先崎市長： 先ほど話にも出ましたが、那珂市に高校生会はありますか。

高安生涯学習課長： 高校生会につきましては、一応ございます。人数的には、5、6名といったところです。

先崎市長： この間の土曜日かな。市長就任する前だったのだけど、県西生涯学習センターの主催で、地域活動の発表会、那珂市の額田の子どもたちのまちづくりのもあったのですが、私は高校生会の文化会に入ったのだけでも、境高校と、岩井のあの辺の高校生会が非常に活発で、30人ぐらい会員さんはいるのだけど、要するに小中学生のキャンプとか色んなものの指導をお兄さんたちがするのですよね。それが終わると今度は成人式の実行委員にスライドしていくっていう流れがちゃんとできていて、中学生も今度卒業すると、高校生会のお兄ちゃん、お姉ちゃんのようなことやりたいなということで上手く循環しているのだという話を。年間一生懸命活動していて、多分一生懸命ケアしているからなのでしょうけども、子どもたちが任せられた、任せられているっていう感じを持って一生懸命やっているっていう。ちょっとコアな話になっちゃうけど高校生会なんかも、やっぱりもう少しなんとかしないといけないのかなっていうね。どうしてもあの年代は部活を一生懸命やっているからね。でも、部活をやっている子も入っているからね。いつも会議でなくてもいいよと。そのときは、会議の内容全部ラインで知らせてあげて、やっぱり今時の子どもなのだろうね。だから、やっぱり障害しないというか、いつ来てもすぐに話しに加われる。だから、今時の子どもたち

なのだなっていう。先ほど教師の意識を変えないといけないという話もありましたが、昔だったらこうだっぺってのは今通じないですね。だから、子どもたちは努力して工夫しているので、若い人たちの特に学生さんの学ぶ場というか連帯して何かやるという体験の場は、高校生会なんかにはまるなって思いました。以上です。

渡邊総務課長： はい、ありがとうございます。皆様の色々の教育に対する思いが聞けて貴重なお時間だったと思います。

それでは、この後の協議事項につきましては、市長が議長となりまして、会議を進めていくこととなります。

それでは、市長よろしくお願いいたします。

先崎市長： それでは要綱に基づき議長を務めさせていただきます。どうぞ円滑な議事進行にご協力をお願い申し上げます。

なお、本会議につきましては、規程によりまして、原則公開とされておりますので、公開で行いたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは早速、お手元の資料に基づきまして協議に入ります。

まずは、次第3番の協議事項の1番。「那珂市教育大綱（案）について」事務局から説明をお願いします。

事務局： 総務課でございます。よろしくお願いします。

説明に入る前に、まず資料の方の確認をさせていただきます。

（配布資料の確認）

それでは、まず、第1回総合教育会議においても協議させていただきました平成31年度から平成34年度までの4カ年の計画となります「新那珂市教育大綱」について改めて内容を説明させていただきます。

（説明）

先崎市長： 当市では、平成30年度より新たな第2次那珂市総合計画が策定されており、当該計画は、教育のみならず、まちづくりの根本となる計画でございます。

この考えから、今回の大綱についても、全く新たな理念や方向性となるようなものをつくるということではなく、総合計画との整合を図った大綱を作るということで、総合計画の教育分野における施策を、大綱として位置付けていきたいと考えております。

この説明で何かご意見、ご質問がございましたら頂戴したいと思いますが、どうでしょうか。どうぞご遠慮なくお願いいたします。

小笠原委員： この大綱はどのようなかたちで市民にお知らせするのかをお聞かせ願いたいと思います。というのも、すごく読みやすく、簡潔なので、これならば、皆さんちょっと関心を持って見ていただけるのではないのかなと思います。

先崎市長： はい、事務局。

渡邊総務課長： はい、基本的にはホームページに掲載することにとどめております。これのもとになる那珂市総合計画についてもホームページには掲載しております。その中の教育の部分を抜粋したもので、またこれはこれで教育大綱ということで、ホームページ上に掲載をしていきたいと思っております。

総合計画のダイジェスト部分は、多分紙1枚か2枚ぐらいで見開きであるのですが、これは全世帯に配付しております。

先崎市長： 要するに総合計画が全部できるよね。その中の第4章の部分が教育大綱というふうに見ていただけるということで、総合計画はきちんと紙ベースでもできているわけだよね。これはどの辺まで配付されるのだけ。

渡邊総務課長： はい、総合計画の冊子になっている部分については市役所の係長以上に配付しております。

先崎市長： どうですか、委員さん、今の回答で。

小笠原委員： はい、例えば、保護者の世代が、これを見るのはどういうときかなって考えたときに、先ほど教育長からお話があったPTAなんかでたくさん学校の資料なんかをいただくのですけども、そういうときに市としては、こういうことで、教育を進めていくのですよっていう資料としていただくと皆は目を通すのではないかとちょっと思ったのですが。

先崎市長： はい、どうぞ。

渡邊総務課長： はい、そういうご意見もございまして、学校のかたにも、ある程度印刷しまして、学校を通して、各家庭に教育大綱できましたということでお知らせすることも可能ですので、その辺は今後検討していきたいと思っております。

先崎市長： 全体的な流れが分からない中で、事務量との問題もあると思うの

だけど、やっぱり今委員さんがおっしゃったように、関わってくれる人たちにもある程度理解をしてもらう必要は当然ある。難しくて読み切れないのではということは抜きにして。総合計画というのは、市の施策を進めていく上での基本ですから、そういう中で、こういったものができたよっていうことをやっぱりお示しするのは大事なことだと思うのですよね。

本当はダイジェスト版でもいいから第4章に関するものができて、PTAの役員さんとか関わる人なんかに見てもらおうというのは大事な取り組みなのだと思うのですよ。どのぐらい反響があるとかってというのは先の話で、やっぱりこういったものができて那珂市は4年間この計画に基づいて那珂市の教育が進むのですよっていうことを理解してもらうだけでも。中の一言一句を理解しろといってもなかなか一般のかたには無理ですよ。だけど、そういう姿勢を示すということが大事なことで、どうせ見せたって分かんねえからってというのは駄目なわけですよ。そこを丁寧にどういうふうにしたら皆に理解してもらえるか噛み砕いてダイジェスト版をつくるというのも一つの方法なのです。そういうふうにして那珂市はやっていくのですよっていうことをお示しされないのかなというのが小笠原委員さんの質問の中に含まれていると思うのですよ。だから、これは事務量と予算の関係もあるでしょうからそういう意見が出たということをちょっとくみ取っていただいて、那珂市でできるもので、対応できるものでどうですか。

渡邊総務課長： はい、今貴重なご意見をいただきましたので、前向きにできることは実施していきたいと思えます。ありがとうございます。

先崎市長： 総合計画の第4章で施策1から施策6まであるのだけど、今説明してもらった教育大綱は、施策5までとなっているけど、これって何か意味があるのかな。

渡邊総務課長： こちら総合計画の施策6は国際交流であるとか市民活動の部分であるということで、教育大綱では割愛はさせていただいたところでございます。実際に教育委員会の所管ではない、横手市との交流であるとかオークリッジであるとか、これは教育委員会の所管でないということでちょっと外させていただきました。

先崎市長： はい、了解しました。ちょっとその辺の説明で片一方は6つあるのに5つしか説明しないなと思ってどういうわけなのかなと思ってね。所管が違うということでここは分けたと。だからこの施策6については別な方で出されると、当然総合計画の中で網羅されるのだ

けども、所管課は別になるということで、ここにはテーブルに上げてないということね。わかりました。

ほかにどうですか、委員さん。住谷委員。

住谷委員： 去年までも大分この大綱につきましては、私ども意見を言わせていただいて、基本的な部分はいえられないというご説明でしたので、大体言い尽くした部分がありますので、今さら申し上げることもないのかなとそれが正直なところでございます。以上です。

先崎市長： 中澤委員どうですか。

中澤委員： はい、住谷先生がおっしゃったような形で、このところ示していただく前のところでは色々我々もこういうふうな思いがあるとお話して、こういうふうな形が出来上がったものですから、これで結構かなと思います。

先崎市長： 基本施策の中で、豊かな心を育てる、はぐくむ、要するに2ページのとこなのだけど、下から3行目に小中学校の適正規模化について検討しますとなっています。私はあとから入ってこんなこと申し上げるのも申し上げないかもしれないけど、これまでの自分の思いとして、残念ながら戸多小学校と本米崎小学校が廃校になり、統合もされました。これは、色んな県の指導とか、色んなこともあってなのかもしれませんし、ただ、それに伴って地域の残念感というか、本当にこう大変なものがある。これは教育という側面から見る場合と、地域振興とかで見る場合とで色々見方があったものだけれども、私自身の考えとしてはもうこれ以上統廃合はあまりしたくないと。巷では、木崎小学校と額田小学校が統合の対象になるではとの噂です。事実ではないですよ。そういうことを心配する人もいます。次は俺の学校かと。非常に地域は心配するし、適正規模というのは、多分、私も色々これまで関わってきたなかでは、クラス替えすることによっていじめの問題が緩和される場合があるとか、あるいは子どもたちのやる気とかモチベーションが上がる場合もあるから、クラス替えできないような規模になってきたときには考えなさいって言うふうなことを言われたような気がします。だけど、地域によっては非常に地域と一体になって頑張ってる学校がある。日立の山部小学校があり、児童数が30人でした。それでも、地域的な関係もあるのですけども、統廃合しないで頑張ろうと地域も一生懸命になって、住宅団地を誘致して子育て世代を引き入れて学校に通ってもらうという条件で非常に安い住宅なんかを提供して地域が一緒になって頑張ってる学校を何とか残そうと頑張っているというこ

とを考えると、この適正規模っていう言葉に私は違和感があるのですね。教育上はこれでいいのかもしれないけども、地域の疲弊感っていうのは大変なものがあって、それをやっぱり何とかしなくちゃいけないのかな。かといって子どもたちのことを考えると、そういうことも環境も必要なのかもしれない。やっぱり切磋琢磨する環境も必要だと。そこの折り合いをどうつけていくかっていうのは大変重要な課題なのかなと私は思っています。今のところそういう適正化の計画はないですよっていうお話も伺ったので安心はしているのですが、どんどん少子化が進めば、またそういうことに直面する場合があります。よって、そういったときに慌てないように、どういうふうにしていったらいいのかなっていうことも考えておかないといけないのかなと私自身は思っています。どこかでそういうことももっともっと勉強、研究しなくちゃいけないのかなと思ってはいるのですけども。

中学校は受験も控えていますし、部活動の問題、働き方改革のところで部活動の話もありましたけれども、小学校とは違います。ですから中学校の場合はある程度一定数を確保して次の機会に備えるというのは当然なのかなと思うのです。小学校の場合には、その地域との関係とかそんなことも少し加味しなくちゃいけないのかなと私は思っているので、皆さんもこれらについては色々な思いがあるかもしれないですけど、そのことはちょっとどっかで言いたいなと思っていたので、今日の機会にちょっとだけ言わせてもらいます。

他にはどうですか。十分これまでも揉んできたということで、特になければ、ご承認ということでよろしいでしょうか。

(異議なし)

先崎市長： それでは、この内容で議会等への報告をさせていただきます。
つぎに進めさせていただきます。
続きまして、協議事項の2番でございます。「那珂市教育大綱の進捗状況について」を議題といたします。
事務局より説明願います。

小橋学校教育課長： (学校教育課所管分の那珂市教育大綱の進捗状況について説明)

高安生涯学習課長： (生涯学習課所管分の那珂市教育大綱の進捗状況について説明)

先崎市長： ただいま、現大綱に掲げた取り組みについて、事務局から全体的な概要の説明がありました。特に、来年度に当市において開催されます「いきいき茨城ゆめ国体(馬術競技大会)」の準備等につい

て、現在どのように進捗しているか。

また、この大会を機にどのようにスポーツ推進を進めていくのか。ぜひ確認したい思いがありますので、説明をお願いします。

那珂市生涯学習課長補佐（総括）： （国体推進室から、国体の概要及び状況についてプレゼンテーション）

先崎市長： ありがとうございます。那珂市の生涯学習の一環としての国体の現状について、理解を深めることができました。

私も、スポーツは心身を健全に保つためには必要不可欠なものであり、市民の誰もがそれぞれの体力や年齢、目的に応じて身近な所で気軽に楽しむことができる重要なものと考えております。

昭和49年以来45年ぶりの開催となる茨城国体をとおして、広く市民の間にスポーツを普及し、市民の健康増進と体力の向上を図り、地方スポーツの振興と地方文化の発展を図ることができればと考えておりますので、様々な課題や苦労もあるかと思いますが、ぜひ本市のスポーツ教育がさらに充実するよう、引き続き尽力をお願いしたいと思います。

それでは、以上で、本日の協議事項は終了いたしました。進行へのご協力、誠にありがとうございました。それでは進行を事務局にお戻しします。

渡邊総務課長： ありがとうございます。

続きまして、次第5のその他で、今後のスケジュールについてですが、今回承認されました平成31年度からの「那珂市教育大綱」について3月中に部長会議に付議し、その後、議会への報告を行ってまいりたいと考えております。

また、来年度の総合教育会議の開催時期については、改めて調整させていただきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

その他委員の皆様から特になければ、以上をもちまして平成30年度第2回那珂市総合教育会議を閉会といたします。

慎重なご協議ありがとうございました。